

“第27回学術大会 日本健康科学学会にて発表する”

2011年8月7日 神奈川県 歯科医師会館にて

「Dr.セラ・イオンパット」装着による血流改善効果の検討

○勝田逸郎（かつだ いつろう）

藤田保健衛生大学医療科学部 臨床検査学科臨床血液学教室

【目的】

「Dr.セラ・イオンパット」は、黒曜石をベースとしラジウム希土元素がブレンドされ、粉末をボール状として高温で長時間焼結したセラミックスである。本素材からは豊富なマイナスイオン・遠赤外線・低レベルの放射線を常時放出しており、これらの効果を健康維持に役立たせようとしている。

今回、本学学生のボランティアを募り、Dr.セラ・イオン装着による体温・血圧・脈拍・体表面温度・ストレスに関する血液成分の変化を検討したので、成績を報告する。

【方法】

効果の判定するため40組（80名）の片方には足首・手首部にDr.セラ・イオンパット、他方にはパット内に偽セラミックスとしたものを同部に装着させ、装着前後1時間における差を求めた。

ストレスに関連する検査は腰部パットを足し、セロトニン・コルチゾール・ドーパミン・ノルアドレナリン・アドレナリン・ACTH・CBCなどとし、6組について2時間における差異を検討した。

【結果】

40組におけるDr.セラ・イオンパット装着の検討では、体温・血圧・脈拍・体表面温度の装着前後の平均値を対比すると装着群の体温は $36.5^{\circ}\text{C} \rightarrow 36.8^{\circ}\text{C}$ 、対照群は共に 36.8°C で変化は認めなかった。

装着前後の体温の変化の差は5%有意水準で平均値に差が認められた（p値:0.034）。その他の検討項目には有意な差は見られなかった。

6組によるストレスマーカーとして検討したセロトニン・コルチゾール・ドーパミン・ノルアドレナリン・アドレナリン・ACTH・アミラーゼ・総カリクレインは、装着前後間の群平均値に差は認めなかった。

サーモグラフィーによる体表面温度変化を額・頸・手背・膝・足甲の5点を計測した群間の平均値に差（5%有意水準）を認めたものは、頸において1時間および2時間値、手背1時間であった。

血球数に関連する8項目（CBC）にも装着有り無しの有意差は認めなかった。

【考察】

Dr.セラ・イオンパット装着によって体温上昇傾向を認める成績が得られた。

今回、検討した血圧・脈拍・ストレス関連検査項目も統計学的な有意差は見られなかったが、装着前後間には減少傾向が観察され、これら総合的作用による血流量の増加が予測された。

【結論】

Dr.セラ・イオンパットを装着することにより、統計学的評価で穏やかな体温上昇が認められ、体表面温度変化は頸・手背部においての上昇が観察された。

装着によるストレスはなく、穏やかな体温上昇は末梢循環血流量の増加を意味し、瘀血の改善、免疫能の向上に期待が持たれた。

キーワード：Dr.セラ・イオン，マイナスイオン

連絡先：藤田保健衛生大学・医療科学部

Tel：0562-93-2611

E-mail：ikatsuda@fujita-hu.ac.jp